

令和5年度 第二ぎんなん作業所事業報告

(就労継続支援B型事業所 定員20名)

1 総括 ～平均工賃月額～

知的に障がいのある人たちの地域における「働く場や生きがいつくりの場」として、ニーズや要望に応じた支援と、利用者さんが喜びや充実感を味わえる生活や作業活動の実施に努めた。

令和5年度の一人当たり平均工賃月額は20,770円で、前年比で382円の増額になり、目標値よりは1,670円上回った。農園芸は例年の作物に加え不知火が手に入り収益増につながった。リサイクル事業はアルミ缶や新聞の買い取り相場が依然高く、収益を上げた。

熊本市から委託されている文書集配だが、最低賃金増によるドライバー（非常勤）の賃金増、ガソリンの値上がりによる燃料費支出の高騰等があるが、委託費については変化がない。利益分が減ることが予想される。

利用者が「生きがいつくり、居場所づくり」として作業所に期待し、通い続ける、そのようなニーズに応えることができることを第一義的に考え、就労支援のメニューの精査、分析、再考が必要である。

表-1 年度ごとの工賃向上計画と実績比較

	R3	R4	R5
平均工賃月額 (目標値:A)	18,500	18,800	19,100
平均工賃月額 (実績値:B)	20,956	20,388	20,770
実績(B-A)	+2,456	+1,588	+1,670

2 利用状況

令和4年度に退所された方が1人いたため、令和6年3月現在で定員20人に対して15人となっている。年間利用総人数は、延べ2840人（令和4年度：3174人）で、1日当たりの実利用人数は11.7人（令和4年度：13.1人）であった。

令和4年度は新型コロナウイルス感染予防のために休まれる方が数人おられたが、令和5年度はその影響も落ち着いてきた。実利用人数を定員の20人に近づけ、活動の幅が広がるようにしたい。

表-2 利用状況

契約者	15人
1日当たり実利用人数	11.7人
年金1級受給者利用比率	39.5%

表-3 1週間の活動表

	月	火	水	木	金
終日	文書集配				
午前	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)
午後	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし リサイクル (受託)	木竹工 缶つぶし 農耕 (受託)	リフレッシュタイム

3 支援の実際

(1) 支援体制

施設長、サービス管理責任者、支援職員2人、非常勤職員3人(1人は事務職員)、文書集配ドライバー5人体制で支援を行った。

(2) 年間営業日数

243日

(※R4年度:243日)

(3) 活動状況

一人一人のニーズや要望、実態を考慮し、働く喜びと充実感が味わえるよう、表のとおり5種の作業内容に加え熊本市から委託を受けた文書集配を分担して実施したが、新型コロナウイルス感染予防のため町内清掃活動が引き続き実施できず、その期間は実施せず、通常の作業に取り組んだ。

金曜日午後のリフレッシュタイムでは、生涯学習の一環として製作(絵)や音楽(ピアノ鑑賞等)、書道、室内ゲーム等の活動に取り組んだ。利用者さんが楽しみにしていた社会体験(春の遠足、秋の遠足)は、新型コロナ感染流行後、昨年度から復活したが、本年度も実施することができた。健康・安全的行事(健康診断、予防注射、火災避難訓練)等は予定通り実施でき、生活の充実や豊かさと安全に向けた取り組みを行った。

4 運営上の工夫と改善の状況

(1) 事務局との連携

円滑な作業所の運営のためにも事務局との連携を図る必要がある。新型コロナ感染予防のため諸行事が制限されることもあったが、法人の研修会への参加、ヒアリングの実施等により交流することができた。今後も育成会の一事業所としての位置づけを確認し、連携を深めていく必要がある。

(2) 地域、その他の機関との連携

本年度も町内清掃は行わなかったが、町内を資源物回収で回ったり、家庭から持ってきてもらったりすることでの交流は続いている。作業所前には野菜の無人販売所を設置しているが、日々、作業所の前を通る人たちが作業所に目を向けてもらえるようにした。地域の人と話す機会も増え和やかに触れ合う機会が増えてきたような気がする。

各特別支援学校とは、作業所の紹介に出かけたり実習を受け入れたりして連携を深めている。熊本市の各相談支援センターとともに、利用者増加のためにこれからもつながりを大切にしていきたい。

家族会には、本年度初めに作業場に大型換気扇を設置したり遮光ネットを設置したりしてもらった。懇談会は本年度も2回行ったが作業所で撮った写真をスライドショーで見てもらい、作業所の活動へ理解を深めてもらった。

熊本パイロットクラブとは長く交流が続いてきたが、本年度も、新年にお菓子いただ

く等、何度も支援してもらった。その度に温かい言葉をかけてもらっている。

(3) 新型コロナウイルス感染予防と衛生指導

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、厚労省、熊本市からの要請に応じ、以下の新型コロナウイルス感染予防に心がけた。

- ① 職員の抗原検査
- ② 利用者、職員の体温測定、行動観察
- ③ 手洗いの徹底
- ④ アルコール消毒の実施
- ⑤ 施設設備のアルコール消毒
- ⑥ 換気の実施、空気清浄機の活用
- ⑦ 感染発生後の対応マニュアルの作成

(4) 安全、危機管理

令和4年度は文書集配において1件の車同士の接触事故が発生したが、5年度は大きな事故はみられなかった。ただ、市役所からドライバーの運転マナーについて注意を受けることは数回あった。文書集配担当者会は年に2回開催し、安全運転についての確認をしている（昨年度は都合上1回の開催）。また、交通事故発生時の対応マニュアルを作成し全車両に載せている。また、帰宅時に利用者が転倒される事故が起きたので、行き帰りの事故防止、安全指導にも努めていきたい。

本年度は、昨年に引き続き避難訓練を行った。危険が迫った時、どのような行動をとるかしっかりと身につくように丁寧に訓練を行った。短時間の訓練を年に何回か繰り返し実施していきたいと思う。

(5) 環境整備

建物の老朽化は進んでいるが、一部補強したりして利用者が使いやすい様に整備を続けている。清掃も小まめに行い、衛生管理にも十分気を付けていった。

夏場は作業棟が高温になるので、暑さ対策は急務であった。令和5年度は大型の換気扇を2台設置し、熱気を外に逃がすようにした。また遮光ネットを入りに張り巡らせて外からの熱を防ぐようにした。さらに特別休暇タイムを設けて事務棟の冷房で体を冷やしたりするなどの工夫をしてきた。

5 今後の課題

- ① 就労収益アップと工賃向上に向けた取り組み
- ② 利用者が減少し、収入的にも作業効果的にも支障が生じてきている。利用者獲得に向けて、各特別支援学校及び相談支援センターとの連携を強めていく必要がある。また、これから入ってくる利用者を迎えていくための環境整備をしていくとともに送迎の充実を図りたい。
- ③ 利用者の高齢化、体力の低下を考慮し、作業内容の工夫や見直しも検討していく必要がある。また作業場以外での生活についても、不都合が生じてきて

いる利用者については、家族やグループホーム、相談員と連携して問題への対応ができるようにしていく。

令和5年度 第二ぎんなん作業所の主な行事等

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	20	6 家族会第1回懇談会 春の日帰り旅行（空港他）	10	2 12 19 27	介護等体験②～6（熊本大学） 実習（平成さくら支援学校）～24日 インフルエンザ予防接種 （吉田病院） 秋の日帰り旅行（ミルク牧場他）
5	9	文書集配担当者会	11	6	職場体験（開新高校）～10日
6			12	5 22	回収協力者年末挨拶開始 クリスマスケーキ購入
7			1	12	パイロットクラブ訪問
8			2	13 14	苦情解決第三者委員会 県事業所協議会研修会
9	4 19 14	介護等体験①～8（熊本大学） 介護等体験②～25（熊本大学） 家族会第2回懇談会 支援計画見直し	3		支援計画見直し 個別面談
※委託販売先：県庁喫茶りんどう（県育成会）、セレクトショップUMU					
作業所 運営の 会議等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情解決第三者委員会：年1回実施（3月） ・ 職員会：スタッフ7人で実施（毎週水曜日） ・ 文書集配担当者会：ドライバー5人を交え年2回実施 ・ 家族会懇談会：年2回実施（4，9月） ・ 個別支援会議（面談）：年2回実施（9，3月） 				
中止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大江小学校えのき祭り ・ 一泊旅行 ・ 熊福連仲間の交流会 ・ 熊福連総会 				